



僕の生活の主体は仕事。でも、  
それを支える住まいのことも  
近頃は考えるようになりました

# 俳優 佐々木蔵之介

不器用な男をコミカルに演じたかと思えば、  
眼光鋭く狂気を表現してみせる。その演技力で  
引く手あまたの人気俳優、佐々木蔵之介さん。  
仕事に向き合う姿勢は、真摯かつストイック。  
ただ、歳を重ね少しずつ変化もしてきたと語ります。

## Profile



## 佐々木 蔵之介 (ささき くら のすけ)

1968年生まれ。京都府出身。神戸大学在学中の1990年、劇団「惑星ピスタチオ」の旗揚げに参加し、1998年の退団まで看板俳優の一人として関西を中心に活躍。その後、拠点を東京に移して本格的に俳優の道へ。2000年、NHK連続テレビ小説『オードリー』で脚光を浴び、以降、ドラマや映画、舞台など数多くの作品に出演。2023年10月24日(火)から主演ドラマ『マイホームヒーロー』がスタート。2024年春には劇場版の公開も控えている。2023年11月3日(金)公開の映画『ゴジラー1.0』に出演。2024年NHK大河ドラマ『光る君へ』では藤原宣孝役で出演決定。


**京都の造り酒屋ならではの  
四季を感じて育ちました**

生まれ育ったのは京都市中。実家は造り酒屋です。住居と蔵、つまり工場が一緒で、だから季節感はずごくありましたね。酒を造るのは基本秋から冬にかけてなので、その時期は蔵人たちが7、8人くらい来て、とても賑やかで。仕込みが始まる早朝、まずボイラーに電源が入ると、グウンって家が揺れるんです。そこから釜で酒米を蒸すんですけど、僕が起きる頃にはもう、蒸気で家の中が真っ白っていうこともありました。

冬場は家がお酒の香りで満たされている、そんな環境。造ったお酒はホースでタンクに流すのですが、そのホースを洗った湯をそのまま浴槽に持ってくるので、当たり前のように酒風呂に入っていましたよ(笑)。子どもの頃は、自分の家が蔵だとまったく意識していなかった。周りにお酒があるのは自然なことだったんです。

春になる頃、酒造りを終えて蔵人たちが帰って行くと、少し寂しい感じになって。夏の間、蔵はとても静かでしたね。京都の夏といえば、7月の祇園祭に始まり、大文字の送り火に終わるという感じですけど、僕らが一番楽しみにしていたのは地蔵盆。各町内のお地蔵さんのお祭りで、みんなで集まって盆踊りをしたり、金魚すくいをやったり。地元特有なのかもしれませんが、そういう遊びがありました。町ごとに日がずれたりしていたので、よその町の地蔵盆もちょっと“調査”しに行ったりして。それはもう楽しかったですね。冬は蔵が忙しくて、僕らもお手伝いしなきゃいけないけど、夏はそういったこともなかった。幼少期を思い返すと、子どもにとって夏休みって、すごく大きな宝物だったなと思います。



**俳優を自分の仕事と定め、東京へ  
あらためて知ったふるさとの魅力**

大学は神戸で、そのあとは大阪で会社に勤めながら劇団を続けていました。高校までしか住んでいなかったの、実は京都をあまり知らない。東京で仕事するようになって、あらためて京都の魅力がわかってきました。神

社仲間もそうですが、山も川もあって、本当に自然に近い。もしかすると日本人のDNAの中に、京都を懐かしく思う何かがあるのかもしれないなって、ロケに行くたび、そんなことも感じます。子どもの頃にそういう場所を普通に遊び場にしていたのは、ちょっとおもしろいですね。仕事でもご縁が続きますし、京都にはこれからずっと、前より深く関わっていきたい。そう思うのは、やっぱりふるさとだからでしょうか。最終的に京都に住めるのなら、それもいいなと思ったりもします。

東京に来て最初に住んだ部屋のことは、今でも特別な記憶として残っていますね。新宿にも近いからという理由で選んだ笹塚のワンルーム。ロフト付きで、1.5部屋みたいな感覚が気に入って決めたんです、有線放送が入っていて、落語が聴けるのもうれしかったな。通りを挟んで向かいにお肉屋さんがあって、そこでコロッケを買ったり、安売りの鶏肉を買ってみたい。もちろん自炊もしていましたよ。まだ、先のことは何もわからなかった。とにかく俳優としてここで仕事をしていくんだという、覚悟とともに暮らした部屋です。

あの頃は、仕事に便利な場所がいいとか、帰って寝るのに必要最小限のスペースがあれば十分とか、住まいに対する考え方も仕事主体でしたな。今もその主体には変わりはないですが、年齢とともに変遷してきて、もう少し、家でゆったり休みたいと考えるようになりました。もっと快適に、ゆとりをもって生活できたらなって、今はそう思っています。


**ずっと変わらず、お風呂が大事!  
あとはお酒と旅さえあれば**

家の中で一番好きな場所はお風呂。それはずっと変わらないですね。実家にいたときから今まで、どこに住んでもお風呂です。お風呂の中でものを考えたり、いろいろ思いを巡らしたり。夜も入るし朝も入る。夜はそれで終わり！朝はそこからスタート！みたいな感じです。最近あまりやらないけど、昔はお風呂の中で、ずっと新聞を読んでいたりもしました。今も台本は見るがありますよ。ある種の閉塞感がいいのかな、頭の中を整



理できる気がするんです。あと、少しばかり汗をかいて、アルコールを抜くのにもいい（笑）。お風呂は僕

にとってはすごく大事ですね。

お酒は毎晩。いや、晩とは限らないな。お酒を飲むのに時間は関係ないです。お酒は特別なものじゃなくて、僕にとっては日常なので。夜に一日のけじめとして飲んだりもするし、休みの日には“朝シャン”とかね。海外の旅先で朝食をとりにレストランに入って、シャンパンあるやん！と思って飲んで、せっかく観光するつもりで早起きしたのに部屋に戻って寝てしまうっていう、もったいないこともよくやります。でも、それもいいんですよ。なにも悪くはない（笑）。

旅は国内でも海外でも、ものすごく気持ちが上がります。自分が当たり前だと思っていたことが、実はそうではなかったと、旅に出ると感じられて、そこで一回リセットする。それがおもしろいかな。地方ロケとかでも、できる時は前乗りするんですよ。町を歩いてその土地のものを食べ、お酒を飲んで、商店街があれば覗いてみて、市場があるなら見に行つて。そういうのが楽しいですね。自分が変わらないから環境を変えないといけないと思っているので、僕には旅が必要。スケジュールさえ許せば、本当にいつでも行きたいです。

### 自分のルーツでもある舞台には これから先も立ち続けたい

東京に来て25年。年齢も重ねてきて、これからできる仕事はだんだん限られてくると思っています。だからこそ、一つひとつ丁寧に仕事をしていきたい。台詞を覚えるスピードも落ちて、丁寧にせざるを得ないところもありますが、前よりも、ものすごくがんばっていたりもするんです。でも一方で、いい意味で諦めることも覚えたり、よりよい近道を考えられるようになった。前よりちょっとは気が楽になったように思うんですよ。

映像の仕事はもちろんですが、僕は舞台出身なので、これからも舞台の仕事は続けたい。体力も精神力もかなり要るので、もう年に1本やれるかどうかというところですが、やはりしっかりと、できることをやっていくつもりです。舞台は映像と違って、作品として残りはないですけども、それに向き合う時間とか、思いとか、覚悟みたいなものを大切にしていきたいですね。だから、それができるような暮らし方や、住まい、環境といったことは、これから自分でも、ちゃんと考えていかないといけないなと思います。

## マイホームヒーロー



しがない会社員・鳥栖哲雄（佐々木蔵之介）は、娘・零花の彼氏を殺してしまい、犯罪組織に追い詰められて…。ジェットコースターサスペンスドラマ。

2023年10月24日（火）スタート。毎週火曜MBS24時59分～/TBS25時28分～放送。2024年春に映画公開。

インタビュー動画は住宅金融支援機構（JHF）  
YouTube公式チャンネルでご覧いただけます  
[https://www.youtube.com/playlist?list=PLcbOj07XtnfKA4\\_r\\_69-mElwHrGxjyKXi](https://www.youtube.com/playlist?list=PLcbOj07XtnfKA4_r_69-mElwHrGxjyKXi)

